

訓練科目の区分		授業科目名		必須・選択	開講時期	単位	コマ/週
教育訓練課程	専門課程	安全衛生工学		必須	I期	2	2
教科の区分	系基礎学科						
教科の科目	安全衛生工学						
担当教員	研究室名	内線電話番号	電子メールアドレス		教室		

授業科目に対応する業界・仕事・技術

- ・生産現場での安全作業(安全人間としての実践力)
- ・安全で活力ある明るい職場づくりへのリーダー的役割
- ・生産現場での災害、疾病防止対策(ソフト・ハード面)

授業科目の訓練目標

授業科目の目標	No	授業科目のポイント
(1)安全の重要性を認識し、それぞれの場で定められたルール・規則を「知って」「実行して」「継承する」ことの大切さを学習する。 (2)機械設備の安全対策、作業者の安全対策、セーフティ・アセスメント、その他安全に関する規約と認証等について学習する。	①	安全衛生管理の重要性と基本的な取り組みについて知っていること。
	②	労働災害の現状と災害の種類・形態、災害レベルの尺度について知っていること。
	③	労働災害防止への事業者の責務と労働者の責務について知っていること。
	④	災害発生時の構図と災害防止への真の原因追求の必要性を知っていること。
	⑤	人的対策(ヒューマンエラー等)、機械設備(本質安全化等)の対策について知っていること。
	⑥	作業環境面(作業手順、作業方法、環境改善、安全教育等)の対策について知っていること。
	⑦	管理面の対策(KYT・ヒヤリハット・指差し呼称・TBM等)の必要性を理解し実践できること。
	⑧	生産現場における疾病(腰痛、粉じん、騒音、メンタルヘルス等)の予防対策について知っていること。
	⑨	リスクアセスメントの考え方、手順を知っていること。
	⑩	労働安全衛生マネジメントシステムの概要を知っていること。

授業科目受講に向けた助言

予備知識・技能技術	安全衛生管理の基本原則、災害の現状とその形態及び災害防止対策、職場の安全活動等の主なポイントを整理し理解しておくこと。また、教科書の中での専門用語等は出来る限り事前に調べイメージできるようにしておくこと。
授業科目についての助言	1. 「自分の安全は自分で守る」為に何が重要か、欠けているものは何か、自問自答する教育の場としてください。 2. 知識を得て実践しなければ意味がありません。得た知識は出来ることから行動に移す努力をしてください。 3. 教育訓練は反復訓練が大切です。一時的なものでなく必要性を理解し計画性を持って取り組んでください。 4. 私たちの身の回りには色々な危険が潜んでいます。日常生活の中でも安全を意識した取り組みをしてください。
教科書および参考書(例)	教科書1:「労働安全衛生(13)」……………日本規格協会 補足資料:「安全教本の抜選」……………自作テキスト
授業科目の発展性	「安全の基本を知る」→「ルールを守り実践する」→「継続し成果を積み上げる」→「次の時代にノウハウを継承する」

評価の割合(例)

指標・評価割合	評価方法	中間テスト	期末テスト(1)	期末テスト(2)作文	その他(授業態度)	合計
	評価割合		40	40	20	
授業内容の理解度		40	40	20		
技能・技術の習得度						
コミュニケーション能力						
プレゼンテーション能力						
論理的な思考力、推論能力						
取り組む姿勢・意欲						
主体性・協調性・態度・規律						減点(最高10点)

回数	訓練の内容	訓練の運営	訓練課題 予習・復習
1週	1. 労働安全衛生教育を始めるにあたって (1)自己紹介及び安全衛生教育計画の説明 (2)災害体験談(西野本人) (3)安全第一の思想(補足資料)	・講義	「安全第一思想」の定着化
2週	2. 労働安全衛生の基本 (1)尊い生命と健康(P-9) (4)トップダウンとボトムアップ(P-12) (2)活性のある職場(P-10) (5)PDCAを回す(P-11) (3)安全衛生の基本コンセプト(補足資料)	・講義	労働安全衛生の基本的考え方
3週	3. 労働災害の現状 (1)災害発生の現状(P-14) (4)災害事例(P-57~66) (2)災害レベルの尺度(P-15) (5)災害の一般的な防止対策 (3)災害の種類(P-17) (6)事故発生時の対応と処置	・講義	労働災害の現状を認識する
4週	4. 企業責任 (1)事業者の社会的責務と労働者の責務(P-19) (2)法の規制・労働安全衛生法(P-20) (3)民事責任・安全配慮義務・両罰規定(P-22と補足資料)	・講義	関係法令について
5週	5. 災害防止の考え方 (1)災害防止の原則(P-25)、ヒヤリハット(P-26)・5S(補足資料) (2)不安全な状態と不安全な行動(P-28) (3)災害の真の要因、災害対策の4M(P-30)	・講義	災害防止の実行具対策
6週	6. 人的対策 (1) (1)不安全な行動の分析(P-35) (2)人の行動を決めるもの(P-37) (3)意識レベルと意識レベルの留意点(P-38)	・講義	「労働災害基本原因」の取り組み方 (人的要因)について
7週	7. 人的対策 (2) (4)人の行動に影響を及ぼす原因・ヒューマンエラー(P-39) (5)人的災害防止策(P-41) (6)安全意識を向上させる(P-43)	・講義	(人的要因)について
8週	8. 設備面の対策 (1) (1)設備の本質安全化(P-48) (2)フルブルーフ・フェールセーフ(P-50) (3)危険体感装置にて実技	・講義 ・実技	(設備的要因)について グループ別で安全防護対策の考察
9週	9. 設備面の対策 (2) (4)墜落・転倒防止(P-57) (5)爆発火災防止(P-65) (6)飛来・落下の防止(P-62)	・講義	(設備的要因)について
10週	10. 中間テスト	・中間テスト	テキストを復習すること
11週	11. 作業・環境面の対策 (1) (1)作業方法の安全化、作業方法作業手順の作成(P-71) (2)作業方法の改善と教育訓練(P-71) (3)環境条件の改善と点検(P-80)	・講義 ・演習	「労働災害基本原因」の取り組み方 (作業環境的要因)について 作業手順書の作成演習
12週	12. 作業・環境面の対策 (2) (4)保護具の着用と管理(P-87) (5)有害業務・環境測定と管理区分(P-84) (6)非正常作業	・講義	「労働災害基本原因」の取り組み方 (作業環境的要因)について
13週	13. 管理面の対策 (1) (1)安全衛生管理体制(P-90) (4)快適職場、メンタルヘルス(P-103) (2)安全教育・技能講習(P-95) (5)セフティー・アセスメント(P-100) (3)生産現場の疾病と予防	・講義	「労働災害基本原因」の取り組み方 (管理的要因)について
14週	14. 管理面の対策 (2) (6)危険予知活動(P-110)・危険予知訓練 (7)ヒヤリハット活動(P-112) (8)指差し呼称・TBM・テーマ活動について	・講義 ・演習	「労働災害基本原因」の取り組み方 (管理的要因)について 指差呼称の演習
15週	15. KYT演習・発表	・講義 ・演習	班別グループ討議と発表
16週	16. 継続的な向上に向けて (1)リスクアセスメントの手順、リスク評価(P-120) (2)労働安全衛生マネジメント(P-126) (3)国際的な動向と今後の取り組み	・講義	継続的な取り組み方について
17週	17. 期末テスト1・期末テスト2(作文)	・期末テスト	テキストを復習すること
18週	18. 職業人としての心構え、明るい職場づくり(補足資料) (1)作文を下にグループ討議・発表 (2)アンケート	・講義 ・発表	班別グループ討議と発表